

四国森林管理局保存の 大正～昭和初期の林業関係写真



大正～昭和初期の林業関係写真をまとめた写真帳

はじめに

四国森林管理局には、大正～昭和初期の林業関係写真をまとめた写真帳が保存されています。写真帳には導入後間もない蒸気機関車、米国から輸入した当時日本に3台しかなかった架線集材機械、魚梁瀬森林鉄道で空の貨車を貯木場から山に戻すために犬が曳いている様子などの木材搬出の状況を写した写真や、治山工事で石積みのお堀を構築する様子、人力ではげ山に段を作り苗木を植えて緑化する様子などの砂防植栽の状況を写した写真が綴られており、当時の人々の林業活動を知る貴重な資料となっています。その歴史的価値が認められ、平成25年度に林業遺産に登録されました。

ここでは、その中の数点をご紹介します。

砂防植栽の状況を写した写真



起工前



積苗工事中



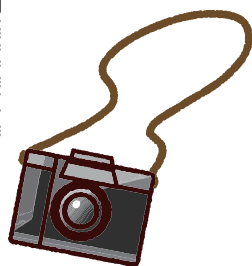
工事終了



工事終了から5年後

四国森林管理局 企画調整課

大正～昭和初期の林業関係写真
<https://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/koho/photobook/index.html>



右下の写真は、工事が終了して5年後の状況です。クロマツは約1・2m、広葉樹は約1・5m以上に成長し、成績は良好であるとの記録が残っています。

右上の写真は積苗工事中の状況であり、工事費は1町歩(約0・99ha)あたり1千円で行われました。その後は、クロマツ(針葉樹)と広葉樹を混交植栽して積苗工事が終了しました。

14ページ下部に掲載の4枚の写真は、愛媛県周桑郡楠河村大字川原津(現・愛媛県西条市河原津周辺)の『永納山国有林35林班い小班』(約41・96ha)の一部を写したものです。旧藩時代は鬱蒼としたマツ林でしたが、明治維新後の乱伐の結果荒廃し、極めて乾燥しやすい土壌であったことや極度の落葉採取が行われたことも影響して、全面積の約3分の1が裸地(はげ山)と化しました。その後さらに裸地が拡大したことから、大正5年から砂防植栽事業として積苗工が開始され、その起工前の状況を写したものです。

木材搬出の状況を写した写真



また、写真帳には、大正期の木材搬出の状況も詳細に記録されています。この写真は、高知県安芸郡田野町の田野貯木場を起点とし、同郡馬路村大字魚梁瀬の石仙土場(魚梁瀬ダムより更に奥地の奈半利川沿い)を終点とする森林鉄道を撮影したものです。延長約41・6km、軌間(レール幅)762mmを約75万円の工事費を費やして敷設して、1台で度(200石)約55・65mを運搬できる10t蒸気機関車3台により、1年間に12万石(約33,400m)の木材を搬出していました。

場の路線を奥地に延伸させ、千本山、小屋敷山、安田川山などの各国有林から生産した木材を輸送しており、その区域では年間85町(約84・3ha)、18万2千石(約50,650m)を伐採していました。樹種はツガが全体の約4割を占め、スギ、モミが続けに続き、広葉樹は極めて少なかったようですが、カシ、サカキ、ミズメなど多様な樹種が生産されていました。針葉樹は用材とし、その枝条、梢頭および広葉樹は製炭用材として供給しており、木炭だけでも総生産額が50万貫もありました。これらの木

おわりに

材を田野貯木場に運搬し、また、その余力を活用して民有林の生産材の輸送も行っていたようです。

ここで紹介させていただいた写真は全体のごく一部であり、四国森林管理局にはこの他にも当時の貴重な写真が多数保存されています。閲覧、活用を希望される場合は、四国森林管理局企画調整課までご連絡ください。